

# 報 告 書

平成 2 9 年度

\* 事 業 報 告

\* 財 務 諸 表

一般財団法人 千代田健康開発事業団

〒101-0043

東京都千代田区神田富山町9番地 神田東邦センタービル

TEL 03-5296-3351 FAX 03-5296-3352

ホームページ <http://www.chiyoda-kenko.jp>

# 事業報告

平成29年4月 1日から  
平成30年3月31日まで

事業概況	2
I 社会厚生事業	3
1. 平成29年度「社会厚生事業助成金制度」の運営	3
2. 地域社会及び健康に寄与する活動・団体への協賛	4
3. 地域社会住民に対する健康相談、健診事業	4
II 有料老人ホーム運営事業：「ラビドール御宿」	5
1. 事業基盤の健全性・安全性・効率性の取組み	5
2. 入居者満足度の維持・向上	7
3. 人材育成の取組み	9
4. 安定経営に向けての新規入居促進	10
5. 介護サービスの品質及び満足度向上	12
III 診療所運営事業：「財団附属診療所ラビドールクリニック」	16
1. 診療状況及び収支の改善	16
2. 地域での活動	16
3. 「ラビドール御宿」との、医療と介護のチームケア能力の向上	17
4. 職員の知識、技能のレベルアップ	17
5. 「ラビドール御宿」入居者検診実施状況	17
IV 理事会、評議員会に関する事項	18



# 平成29年度 事業報告

〔平成29年4月 1日から  
平成30年3月31日まで〕

## 事業概況

一般財団法人千代田健康開発事業団は、事業母体日立ビルシステムの支援を受け、昨年度から定期開催している経営強化タスクの成果として、定期建物賃貸借契約であったケアセンター棟の早期買取りを行い、固定費削減及び急な要介護者増加による満床問題にも速やかに増床工事が行える体制を確立した。

社会厚生事業の保健活動助成は、チヨダ地域保健推進賞の内容を各都道府県の関連部署が理解していただく活動を実施した結果、前年より大幅に応募数を増やすことができた。

地域社会及び健康に寄与する活動・団体への協賛は、財団職員の大会出場やパンフレットにホーム紹介、なでしこリーグ2部に昇格した女子サッカーチームの後援など地元との関係強化を務めた。

県行政機関への協力は、第5回千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会、千葉県社会福祉協議会、千葉県介護保険関係団体協議会の委員として参画し、全国有料老人ホーム協会及び全国介護付きホーム協会の両団体とも密接な関係を維持している。

有料老人ホーム運営事業は、これまで静観していた最大手の不動産会社が本格的に高齢者事業に参入を公表し、有料老人ホームを含めた高齢者施設数の拡大は右肩上がりが増え、建設会社、損保会社などあらゆる企業が乱立する厳しい状況の中、当ホームの運営は順調に伸び、リゾートホームというブランド力と上質のサービス提供によって、入居者及び家族から高い評価をいただいている。

診療所運営事業では、地域医療への貢献とラビドール御宿への医療サポートを継続して実施した。

千葉県内第1位の高齢化率である御宿町にて良質な高齢者医療を提供し、御宿町教育支援委員会、御宿町国民健康保険運営協議会、御宿町認知症初期集中支援チームの委員として活動した。

ラビドール御宿の入居者に対しては、365日24時間の医療サポートを維持した。増加する看取りケアに対してはホームとの情報連携を密にして、本人及び家族の意思を尊重した対応を実施している。

# I 社会厚生事業

## 1. 平成29年度「社会厚生事業助成金制度」の運営

昭和29年に創設した社会厚生事業助成金制度であるが、昨年と同様に「保健活動助成」のみを実施した。なお、助成制度発足以来の助成団体数及び助成金累計額は下記の通りである。

項目	平成29年度		発足以来の累計額	
	団体数	助成金額(万円)	団体数	助成金額(万円)
医学研究助成	—	—	1,667	128,745
保健活動助成	29	580	827	16,840
合計	29	580	2,494	145,585

### (1) 第21回「保健活動助成」の実施

#### ①応募内容

- (A) 応募期間：平成29年6月初旬～8月末日
- (B) 活動テーマ：地域保健活動の推進において、高齢者や成人に対する医療・介護に関し顕著な実績を上げている保健師（個人またはグループ）の活動
- (C) 応募要件：都道府県・市・区の保健所長または市町村所管部門長の推薦を受けること
- (D) 助成団体数：35団体以内
- (E) 助成金額：1団体につき20万円
- (F) 後援：厚生労働省・全国保健所長会・全国保健師長会

#### ②チヨダ地域保健推進賞の状況

本年度も全国各地から応募を頂戴し、理事会にて選考の結果29名（グループ）が受賞され、創設以来、延べ827名（グループ）の方々が受賞している。

今回、「保健活動助成」を広く紹介するために応募要領を市区町村へ配布した結果、昨年より応募数の増加を図ることができた。来年は、更なる応募数増加にむけ応募要領を市区町村の地域健康づくりや高齢者介護の担当部署へ直接郵送する。

ご後援を賜っている厚生労働省・全国保健所長会・全国保健師長会をはじめ、全国各地の保健所長、都道府県、市区町村の保健福祉関係部門長の皆様のご支援、ご協力に対し深く感謝を申し上げます。

#### ③表彰の実施

表彰は、経費節減と安全面を考慮し、平成29年11月に表彰状を入賞者（グループ）に送付し、報奨金（20万円）を入賞者（グループ）の指定銀行へ振込みした。

#### ④保健活動成果報告集の発行

平成30年3月に平成29年度（第21回）「保健活動成果報告集」を発行し関係者に配布した。

## 2. 地域社会及び健康に寄与する活動・団体への協賛

今年度も、地元夷隅地域を中心に4ヶ所で協賛、支援し、実施状況は下記の通りである。

### (1) 実施状況

#### ①「第32回全日本学生ライフセービング選手権大会」へ協賛

9月23日(土)、24日(日)に御宿中央海岸で全日本学生ライフセービング選手権大会が開催され、全国から43チーム、643名の大学生が参加した。大会初日は、雨風が強くなり開会式は中止となり開催も危うい状態であったが、学生達の熱意が通じ天候も回復して、競技も予定通り無事終了することができた。

#### ②「第10回いすみ健康マラソン大会(増田明美杯)」へ協賛

12月2日(土)、3日(日)にいすみ健康マラソン大会が開催され、協賛企業として開会式に出席した。この大会は全国ランニング大会100選に選ばれ、毎年約5,200名のランナーが参加している。当財団の職員及び家族も第1回大会から参加しており、大会当日は、天候にも恵まれ、職員が5・10kmに5名出場した。出場者及び関係者に配布された大会パンフレットに広告掲載を行った。

#### ③「認知症サポート医講演会」へ協賛

1月31日(水)に御宿町役場で当財団附属診療所(ラビドールクリニック)の深山所長による認知症の講演会が御宿町主催で開催された(千葉県認知症地域医療支援事業)。認知症サポート医の深山所長より「認知症の理解とケア」と題した講演が行われ、御宿町民等82名が参加した。講話後、認知症にならないための注意点など熱心な質疑が行われた。当財団より協賛品として参加者全員に脳トレ用の冊子を配布した。

#### ④「オルカ鴨川FC」へ協賛

ラビドール御宿の協力医療機関である亀田総合病院が協力している女子サッカーチーム「オルカ鴨川FC」に引き続き協賛した。昨年度の対戦成績は、18戦7勝4敗7分4位で、なでしこリーグ1部への昇格にはならなかったものの、今年度、昇格を図るべく、チリ代表他10名の補強を行っている。

## 3. 地域社会住民に対する健康相談、健診事業

財団附属診療所(ラビドールクリニック)で行っている地域住民に対する健康相談、健診の実施を支援した。平成29年度実施した健康相談、健診協力は下記のとおりであり、

- (1) 御宿町特定健康診査・高齢者健診への協力。
- (2) インフルエンザワクチン予防接種・肺炎球菌ワクチン予防接種への協力。
- (3) 夷隅郡市介護認定審査会委員。
- (4) 御宿町教育支援委員会委員。
- (5) 御宿町国民健康保険運営協議会委員。
- (6) 認知症サポート医(御宿町での講演活動及び認知症初期集中支援チームへの参加)。
- (7) 地域での産業医活動(千葉県水産情報通信センターの嘱託産業医)。
- (8) 医師会活動。

等を通じて、地域社会に貢献した。

## Ⅱ 有料老人ホーム運営事業：「ラビドール御宿」

社会保障財源となるべき税収入が見込めない厳しい状況は依然続く中で、平成30年度の第7期介護保険法改正を迎える準備の年を迎えた。介護報酬に至っては前回（3年前）同様のマイナス改定の懸念はあったが、介護職員の社会的評価を目的とした介護職員処遇改善交付金の引き上げ等により、現状に比べ微増での改定となった。

一方、郊外における軽度要介護者に対する介護職員の人材不足は深刻を極め、訪問介護を中心とした大手企業が撤退を余儀なくされている。反面、都市部においては介護職員を有しない住宅型有料老人ホームの他、シニアマンションが大手デベロッパーにより増加し始めている。

今もなお依然として増加し続ける高齢者施設（住宅）に対し、ラビドール御宿の特徴である「入居時自立リゾート型ホーム・医療・介護・看取り・確かな経験と実績」の取り組みを新聞や雑誌等、幅広く展開したことにより、12組16名の新規入居者を迎え入れ安定経営へ繋げられた。

少子化並びに労働力の高齢化を迎えている御宿地域において労働力確保は必須であるが、ラビドール御宿は新卒者2名を採用し導入研修や介護技術指導、マナー研修により、入居者から頼られる職員として育成させる事が出来た。

併せて、労働災害及び健康障害の防止を目的とした「安全衛生委員会」においては、職場内定期巡視を始めストレスチェック・定期健康診断等を産業医である同財団診療所長指導の下、2年目を終えた。

入居者へ対しては、27年度より着手した第2回目の各棟バルコニー側外壁補修工事も今年度B棟・D棟を合わせて実施し、居住場所における整備に努めた。

また、生活の潤いと引きこもり防止としてのイベントも「楽しさと安全」をテーマに実施した。加えて、アスレチックジムを利用した介護予防諸施策の実施と居室並びにケアセンターで介護を受けられる方へ対しての日常生活支援・24時間見守り等を継続した。

平成29年度においても次に挙げる具体的な取り組みを実施し、順調に運営することが出来た。

### 1. 事業基盤の健全性・安全性・効率性の取り組み

#### (1) 財務体質の強化と会計管理の改善

- ・見学者ニーズを捉えた企画見学会のDMの発送や雑誌、新聞への掲載を継続すると共に「全日本学生ライフセービング選手権大会協賛広告」「いすみ健康マラソン協賛広告」の他、近隣地域の高齢化に対する新たな取り組みを実施し、12組16名を迎え入れることができた。一方、退去者は13組18名であったが、今後もシニアニーズに合わせた募集活動を精力的に実施し、財務体質の強化を図っていく。
- ・建物・設備に対して長期修繕計画に基づき、次の(2)に掲げる項目を実施した。
- ・単年度予算のチェック&フォローを毎月の経営会議で行い、予算内収束に努め、予算外支出においては、決裁書をもって対応した。加えて、検討事項であった診療所との委託契約の改定を行った。
- ・(株)日立ビルシステムによる会計監査を受審した。会計帳簿の他、現金・切手等の管理における指導を受け、是正した。

## (2) 建物・設備の更新

- ・長期修繕計画及び改修指導等により次の建物・機器の更新を行った。

ア. 厨房用温蔵庫	イ. 空調機更新工事（病室・ロッカー室・廊下）
ウ. B棟・D棟バルコニー側の外壁工事	エ. ラビドールホール漏水対策工事
オ. A棟廊下側一部漏水補修工事	カ. ダイニング自動ドア設置工事
キ. 花壇下の埋設配管補修工事	ク. クリニック及び霊安室の非常扉
ケ. クリニック自動分包機械	コ. クリニックX線照射装置、自動現像装置等
サ. クリニックレセコン更新（薬袋印字装置付）	シ. 居室隔壁交換工事（3枚保険対応）
ス. 消防設備更新工事（蓄電池交換、非常照明器具交換、消火器更新、誘導灯バッテリー交換）	

## (3) 適正人員と人事制度の見直し

- ・要介護認定者数に対する介護職員の適正配置に努めた。
- ・「育児・介護休業法」に伴う育児休業取得者1名が復職し、新たに1名が育時休暇を取得した。
- ・職員健康診断に位置付けたストレスチェックを継続した。
- ・「安全衛生委員会」における職場巡視において、ケアセンター休憩室の改善を図った。今後も定期的に職場巡視を行い、安全で働きやすい職場環境維持に努めていく。
- ・福利厚生の一環として「食事手当」の導入を行った。

## (4) 介護保険制度

- ・平成29年度においても職員配置状況やサービス内容に留意し、誤りの無い請求を継続した。
- ・従来からの介護職員処遇改善加算の申請・報告手続きも法令対応に基づき千葉県に行った。
- ・認定期間満了における介護予防施設更新申請を行った。

## (5) リスクマネジメント

各リスクに対し、管理の強化に努めた。

- ・「データ流出のリスク」対策として、個人情報保護法に基づく勉強会により重要性の認識を深めると共に職員のマイナンバーにおいて適正な保管を行った。
- ・「食品衛生のリスク」対策として、衛生管理基準の遵守、定期社内検査、食材の安全仕入管理（トレーサビリティ）、自己管理の強化（食堂担当業者の罹病時の報告徹底）を継続して、食中毒事故防止の徹底を図った。また、夷隅保健所指導による献立表への脂質の表示を行った。
- ・「感染症リスク」対策として、夷隅感染症情報の活用と同財団診療所との共同委員会の活動を実施した。29年度においては、B型インフルエンザが流行したがラビドール御宿においては1名様が罹患され、居室配膳により蔓延防止を行った。また、ノロウイルスに対しての基礎知識を各部ミーティング内で周知すると共に、食堂担当業者とも共同でダイニングルームでの嘔吐を想定した実地研修を行った。
- ・「広告表示物」作成時においては、全国有料老人ホーム協会の他、日経新聞・婦人画報社等の指導要領の遵守に加えて、同協会によるリーガルチェックの受審を励行し、景品表示法への対応を行った。
- ・「自然災害へのリスク」対策として、入居者参加の火災時避難訓練を各棟対象として4回へと増加させ、延べ62名の参加により火災発生時における意識向上を図った。
- ・「介護事故へのリスク」対策として、安全管理体制を強化すると共にインシデント（ヒヤリハット）の報告厳守と再発防止に努めた。
- ・「安全装置・機器の機能維持」対策として、緊急通報装置・自動火災通報装置の各居室への定期立入検査を行い、安全性の維持に努めた。



- ・「交通事故への取り組み」としては、春・秋の交通安全週間や夏季・年末年始における交通量増加時期等、注意喚起を定期的に行い安全運転への意識維持に努めたが、2件（通勤時・業務中）の交通事故が発生し、再発防止に努めた。

## 2. 入居者満足度の維持・向上

### (1) 生活サポートの充実

- ・親しみのある雰囲気を維持し、フロント職員・介護職員その他全職員が「笑顔と挨拶・マナー」を励行し、接遇の向上に努めた。
- ・入居者からの申し出に対しては、迅速な対応と実施後の確認を励行した。
- ・売店商品においてはアピール商品（防災グッズ・防寒グッズ）を売店前に陳列する等、サービス維持と売上の微増に繋げた。
- ・従前の館内販売パン業者の撤退に伴い、新たにパン業者を選定し利便性の維持に努めた。
- ・電話による特殊詐欺が発生したが、館内放送と配布物にて対応し被害の発生は無かった。
- ・入居時の引っ越しサポートとご逝去における遺族サポートを継続した。
- ・「分かり易い情報源」としての『掲示板と手書きのA型看板』を継続し、情報が滞らない対応とイラストを加え、入居者への関心を高めた。
- ・身元引受人へ対し、ラビドール誌、暑中見舞い、年賀状等の送付に加え、適宜定期連絡を実施した。
- ・各種同好会並びに個人発表会に対しては、ポスター作成のお手伝いや諸準備などのサポートを行った。
- ・3ヶ月に及ぶ長期工事となるB棟、D棟外壁補修工事において事前説明会を開催した。

### (2) イベント企画

- ・春夏秋冬の4大イベント（春の花祭り、納涼祭、文化祭、クリスマス会）を軸に、クラシックコンサートやタンゴコンサート、小唄・曲独楽などのラビドールホールを活用したイベントに加え、バスツアーやお買い物ツアーによる外部へのイベントも定期的に開催した。4回実施したバスツアーの内2回は定員超過したがバス2台等での対応を行った。
- ・大きなイベントの他、「サロン遊々」や「珈琲館アンシャンテ」を始め、お茶会、映画観賞会等、様々な趣向に合わせたイベントを実施した。また、「夕餉とカラオケを楽しむ会」も定期イベントとして定着し、毎回9～15名様前後の参加を頂戴した。
- ・大きなイベント、小さなイベントを通し、「楽しみと引きこもり防止」に努めた。
- ・29年度においては桜の開花が早まり、年度内2回の庭園お花見会を実施した。

【実施イベント一覧】

開催月	イベント名	開催月	イベント名
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お花見ツアー (27名)</li> <li>・庭園お花見会 (63名)</li> <li>・夕餉とカラオケを楽しむ会 (10名)</li> <li>・親睦パークゴルフ会 (9名)</li> <li>・端午の節句飾り</li> </ul>	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寿会 (11名)</li> <li>・ゴルフ大会 (10名)</li> <li>・黒沼様コンサート (86名+25名)</li> <li>・親睦パークゴルフ会 (雨天中止)</li> <li>・文化祭飾り付け</li> <li>・ハロウィン飾り</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴァイオリンとヴァイオラのコンサート (45名+5名)</li> <li>・野点 (49名+1名)</li> <li>・親睦パークゴルフ会 (9名)</li> <li>・体力測定 (44名)</li> <li>・菖蒲湯</li> <li>・母の日のカーネーション進呈</li> </ul>	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭展示の部, 発表の部 (75名+6名)</li> <li>・芸術観賞会 (小唄と曲独楽 35名)</li> <li>・亀田病院医師による講演会 (69名)</li> <li>・鈴木智恵様社交ダンス発表会 (40名+5名)</li> <li>・秋のパークゴルフ大会 (6名)</li> <li>・体力測定 (71名)</li> <li>・紅葉バスツアー (16名)</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あおば展 (出展者 7名)</li> <li>・花巡りバスツアー (17名)</li> <li>・寿会 (19名)</li> <li>・親睦パークゴルフ会 (7名)</li> <li>・半日お買い物ツアー (20名)</li> <li>・コーラスクラブ交流会 (38名+10名)</li> <li>・父の日の黄色いバラ進呈</li> <li>・七夕飾り</li> </ul>	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマス飾り</li> <li>・イルミネーション</li> <li>・クリスマス忘年会 (115名+5名)</li> <li>・餅つき会 (83名+1名)</li> <li>・正月飾り・ゆず湯</li> <li>・暮れの買い物ツアー (26名)</li> <li>・クリスマスシックコンサート (49名+8名)</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕餉とカラオケを楽しむ会 (15名)</li> <li>・衛生栄養講座 (46名)</li> <li>・納涼祭 (121名+3名)</li> </ul>	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初謡会 (26名)</li> <li>・初詣成田山ツアー (30名)</li> <li>・新春お茶会 (49名+2名)</li> <li>・夕餉とカラオケを楽しむ会 (9名)</li> <li>・節分飾り</li> <li>・千葉銀行相続セミナー (23名)</li> </ul>
8月	夏季の為、イベント無し。	2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節分豆配布</li> <li>・雛飾り</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンゴコンサート (67名+13名)</li> <li>・半日お買い物ツアー (21名)</li> <li>・十五夜飾り</li> </ul>	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロビー花飾り ・雛あられ配布</li> <li>・蓬餅と甘酒のご賞味会 (87名)</li> <li>・スプリングコンサート (52名+22名)</li> <li>・LAVIE☆FESTA (129名)</li> <li>・半日お買い物ツアー (17名)</li> <li>・親睦パークゴルフ会 (7名)</li> <li>・庭園お花見会 (73名)</li> </ul>

※ (●●名+●●名) = (入居者+ (家族+近隣居住者))

### (3) 食事の満足度の向上

- ・喫食数の状況は、全ての食事で微減した。

	平成29年度		平成28年度		増減	
	総食数	1日平均	総食数	1日平均	総食数	1日平均
朝食	38,222食	105食	39,127食	108食	905食減	3食減
昼食	39,873食	110食	41,441食	114食	1,568食減	4食減
夕食	45,221食	124食	48,331食	133食	3,110食減	9食減

- ・予約無しでも食事が出来る固定食（そば・うどん・カレーライス）の継続提供を行った。
- ・刺身、ステーキなどの特別価格帯でのパーティー料理の提供とその維持に努めた。
- ・味覚を考慮した誤嚥防止食、高齢者向け機能性食品の提供を行った。
- ・食事改善に取り組み「新規メニュー」や「シェフのおすすめメニュー」を導入し、食数増に努めた。
- ・四季に合わせたテーブルクロス交換や飾り付けにより清潔感のある楽しい空間造りに努めた。

### (4) 住環境の満足度向上

- ・定期的な敷地内巡回により、次の小修繕を行い住環境の維持・整備に努めた。

ア. レッドロビン（生垣）の補植	イ. 配管からの漏水修繕（3箇所）
ウ. 正面玄関ガラス部へ飛散防止フィルムの貼付	

### (5) 介護予防対策

- ・介護予防を目的としたアスレチックジムの利用者増を図るべく、配布物やラビドール誌への掲載を行った。今後も体力維持・健康維持のサポートとして利用者増に努めて行く。
- ・体力を可視化するため、体力測定を年2回（内、1回は骨密度測定を組み入れ）実施した。

#### 【アスレチックジム・プール年度別延べ利用者数】

区分	平成29年度	平成28年度	増減
アスレチックジム	8,100名	8,588名	488名減
プール	1,251名	951名	300名増
※アスレチックジム：全体で488名の減少 新規入居者利用により利用者の増加はあるものの1人当たりの利用回数が減少したため、延べ利用者数は減少した。 ※プール：全体で300名の増加 新規入居者利用により延べ利用者数が増加した。			

## 3. 人材育成の取組み

### (1) OJTによる働きがいのある職場づくりの構築

- ・29年度は、介護サービス部へ2名の新卒者を採用した。他の先輩職員同様、入社1ヶ月間はアスレチックジム・フロントなど、ラビドール全体の業務研修を行った。その後、日勤集中業務期間を経て、夜勤補助及び交代勤務にも組み入れ介護職全体業務を段階的に習熟させた。
- ・介護職員の育成としては、ケースカンファレンスを中心とした社内研修会で知識、技術の向上を図ると共に、安心できる職場環境の構築によりロイヤリティの向上に努めた。また、コミュニケーション手法や身体ケアを反復訓練して基本的な介護技術の完全修得とスキルアップを図った。

- ・家族的介護の視点に立った「寄り添うケア・心のこもったケア」について実践指導を行い、安心感のある介護サービスの提供に努めた。
- ・介護サービス部においてはレクリエーション担当やインシデント担当など、各担当制により個々の目標達成と責任を明確化して業務達成意識の向上を図った。

(2) OFF-JTによるスキルアップ

- ・全国有料老人ホーム協会主催「東日本事例発表研修会」にも継続参加・発表し、高い評価を得た。  
発表テーマ：【家族が主体の介護で得られたものとは】
- ・その他次の研修会へ参加し、知識・技術の向上に努めた。

No.	研修名	No.	研修名
1	全国有料老人ホーム協会 基礎研修	7	いすみ消防本部主催防火安全研修
2	入居者保証制度説明会	8	営業力向上講座
3	社協主催ストレスマネジメント研修	9	亀田病院主催 応急手当講座
4	社協主催苦情対応研修	10	夷隅保健所主催給食従事者衛生講習
5	社協主催防災力強化研修	11	夷隅保健所主催災害時給食施設研修
6	いすみ消防本部主催普通救命講習	12	ヘルス&フィットネスジャパン見学

(3) 提案制度の推進

- ・平成29年度においては、各部より64件の応募があり7名が表彰された。

一等：「ケアセンター及び居室での入浴介助利用者への注意事項の作成」  
「お風呂が苦手な方への入浴チェック表作成による声掛けとアプローチ」

#### 4. 安定経営に向けての新規入居促進

(1) 新規入居促進の取組み

- ・入居者の満足度の高いサービスの維持並びに入居検討者のニーズ検証による様々な企画見学会の実施により、前年度に比べ見学者組数は微減したが、見学者数は増加した。
- ・今年度は、8組10名の方が口コミ・紹介によりご契約に至り、近隣住宅地の高齢化が伺え、従前より継続している近隣施設（亀田病院・ミレーニア勝浦・勝浦東急・西武プロパティーズ・御宿霊園）へのパンフレットの定期配布並びに新たに近隣住宅地の掲示板へ「内覧会のご案内」を貼りだした。
- ・全国有料老人ホーム協会会員、協会セミナー参加者、登録者を対象としたDMでの見学会の配信により、登録者再来館者等入居有望顧客の見学動員数が増加した。
- ・入居促進施策として、三井デザインテック（株）監修による「新居室内覧会」としての見学会を行い、9組15名の多くの反響を得て登録者増が図られた。
- ・販売居室におけるグレード感と品格を保つための住環境整備として、リフォーム時に暖房乾燥機付きユニットバスへの設備更新並びに空調機の更新を行った。
- ・既存セミナーの出展内容の制度向上に努め、新規顧客拡充に繋げた。
- ・入居検討者個々へ対する寄り添った入居相談活動により信頼関係を構築し、将来の入居者となる登録者の拡充に繋げた。
- ・登録者、入居待機者の個別情報管理のスクリーニングを定期的に行い、空室発生時における適切な入居アプローチにつなげ新規入居を促進した。
- ・入居相談東京分室活動として、電話での問い合わせや訪問時において情報を収集し、入居相談部と連携を図り見学・契約へ繋げた。

(2) ラビドール御宿の社会的評価・信頼度向上への取組み

- ・Webにおける最新の重要事項説明書の更新並びに財団ホームページでの財務状況等の公表を通し、ホーム運営の透明性・健全性に対する企業信頼度の向上に努めた。
- ・社会的価値のある“社会厚生事業活動”を継続している財団の有料老人ホームとして、「日本ライフセービング協会」「いすみ健康マラソン」の広報誌やパンフレットへの掲載を行い、入居検討者拡大を図った。
- ・高齢者福祉の観点から企業顧客向けセミナーの講演「超高齢化社会の動向と元気で長寿に暮らす秘訣」(二見専務理事講師)を行い、社会的貢献活動に取り組んだ。
- ・ケアセンターの所有変更に伴う広告物の表示修正を行った。
- ・新規入居者へ対して定住1ヶ月を目安にした入居后面談を行い、その内容を生活サービス部・介護サービス部とも共有を図る事により、引っ越し後の生活定着支援を実施した。

【見学状況】

年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
見学者数	110組207名	120組187名	158組235名

【セミナー出展状況】

全国有料老人協会主催セミナー(春季)	5月24日
首都圏有料老人ホーム合同セミナー	7月18日
SMB C日興証券(津田沼)顧客向けセミナー講演	7月27日
全国有料老人協会主催セミナー(秋季)	10月30日

【新聞・雑誌掲載状況】

日経新聞(夕刊)広告掲載	7月19日、11月15日
婦人画報	9月30日
ダイヤモンドセレクト	9月29日
週刊朝日MOOK取材掲載	9月23日
タカシマヤ通販誌	3月12日
千葉県医師会報	定期掲載6回/年
学士会会報	定期掲載6回/年
協会「輝きニュース」広告同封	4回/年
全日本学生ライフセービング選手権大会協賛広告	9月23日
いすみ健康マラソン協賛広告	12月2日

【入居状況】

項目	平成29年度	平成28年度	平成27年度
新規入居者数	12組16名	8組13名	12組17名
退去者数 (内、死亡退去)	13組18名 (13組18名)	13組17名 (11組15名)	13組17名 (11組15名)
年度末入居者数	183室238名	184室240名	189室244名

【企業等見学状況】

実施月	来館企業	来館者数
5月	三井デザインテック（株）	2名
6月	SMB C日興証券（株）	2名
7月	（株）日立ビルシステム グローバル経営戦略統括本部	1名
10月	三井不動産レジデンシャル（株）	5名
2月	（株）介護情報館	3名
平成29年度 合計5組13名		

【取材】

9月	週刊朝日MOOK取材掲載	3名
----	--------------	----

【企画見学】

5月	ラビドール御宿の医療支援・介護・看取り	4組7名
6月	薫風の日帰り見学会	6組9名
7月	夏のリゾート型ホーム 入居体験	3組4名
8月	初秋の日帰り見学会	4組7名
9月	初秋の日帰り見学会	2組2名
	新居室内覧会	9組15名
10月	今からはじまる生活プラン	無し
12月	初春の日帰り見学会	無し
1月	初春の日帰り見学会	無し
2月	東京駅からの職員同行見学会	8組14名
3月	亀田病院特別見学会	10組16名
	タカシマヤ会員プレミアム内覧会	6組12名

## 5. 介護サービスの品質及び満足度向上

### (1) 介護予防諸施策の充実

体力・筋力の維持の状況、介護予防の取り組みの気づきとして、5月と11月に健康づくりの指標となる体力測定を実施した。また、11月の体力測定では、給食委託業者（株）グリーンハウスの協力を得て骨密度測定も例年通り実施した。今年度は延べ116名（前年度84名）が参加し、基礎体力・バランス力・転倒予防に繋がる取り組みが強化された。

居室グループでは、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）予防の為に介護予防プログラムを生活サービス部（アスレチックジム運動指導員）と共同で、毎週水曜日に「元気づくり体操」として実行した。

ケアセンターでは、「みんなの体操」を週5回の頻度で開催し、介護度の高い方向けにも「生活リハビリ」を組み合わせた体操を別フロアで提供し、介護予防の充実を図った。

咀嚼力・嚥下力の維持・向上のための生活リハビリは、ケアセンターの全てのフロアで食事前に実施する嚥下機能訓練を継続的に実施しており、今年度も飲食時の誤嚥リスク低減につなげることができた。

また、認知症予防においては、ケアセンター利用者を対象として、フロア内での小グループアクティビティ活動を毎日実施する事で、認知症予防の取り組みを高めることができた。更に自立者向けにも「ヨガ体操」「音楽療法」「サロン遊々」等、自由参加型の認知症予防プログラムを提供する事で、生活自立度を高める方向での取り組みが継続できた。

【介護予防運動実施状況】

実施月	平成29年度		平成28年度	
	実施回数	延べ参加人数	実施回数	延べ参加人数
4月	22回	209名	17回	255名
5月	23回	254名	21回	249名
6月	23回	276名	26回	233名
7月	21回	248名	21回	316名
8月	23回	247名	21回	272名
9月	22回	237名	30回	332名
10月	22回	225名	18回	222名
11月	23回	234名	18回	190名
12月	25回	284名	20回	229名
1月	21回	235名	16回	162名
2月	21回	244名	17回	182名
3月	21回	227名	22回	260名
合計	267回	2,920名	247回	2,902名

【アクティビティ実施状況】

実施月	平成29年度		平成28年度	
	実施回数	延べ参加人数	実施回数	延べ参加人数
4月	29回	179名	34回	132名
5月	31回	235名	27回	87名
6月	44回	271名	37回	71名
7月	31回	154名	29回	92名
8月	32回	130名	27回	52名
9月	32回	152名	35回	70名
10月	63回	189名	21回	84名
11月	95回	296名	35回	95名
12月	79回	329名	22回	66名
1月	76回	403名	7回	31名
2月	62回	349名	8回	26名
3月	78回	407名	23回	134名
合計	652回	3,094名	305回	940名

※平成28年度1月・2月はインフルエンザ患者発生により蔓延予防として開催を控えた。

(2) 暮らしやすい生活・介護サービスの充実

暮らしやすい生活、入居者のニーズに基づいた介護サービスの取り組みとして、今年度も「ラビドール式フットケア」や「お買い物ツアー」等を中心に生活支援プログラムを実施した。

外出プログラムである「スマイルお買い物ツアー」では、いすみ市や大多喜町のスーパーやホームセンターまでの送迎・付き添いを実施し、94名（昨年度82名）の参加を得た。

お買い物ツアーでは、8月にスーパー内での転倒事故（膝の怪我）の事例を基に、翌月の9月から職員引率者を1名から2名に増やしての対応を実施し、安全な外出プログラムに努めている。

居室グループではケアセンターグループで人気のある「スイーツを楽しむ会」の要素を取り入れ、「ネイルケアとスイーツを食べる会」を新たに開催し、好評を得ることができた。

ケアセンターグループでは、ケアセンター2大イベントである「秋祭り」「クリスマス会」に多くの参加者を迎える事ができ、入居者・家族・職員との交流も活発化された。

介護サービスの特徴として、自立者の通院支援サービスが増える状況にあり、協力医療機関（亀田クリニック）への定期送迎バス以外にも介護サービス基準に基づき個別に対応している。

入居者の身体状況の変化としては、軽度な転倒やちょっとした前傾動作で脊椎圧迫骨折となるケースが多く発生しており、入院治療（手術）を受けて自立生活に戻られた良い事例を積み上げる事ができている。

このような、脊椎圧迫骨折事例は自立者（居室生活者）に多く、ケアセンター利用者の発生は少数に留まっている（脊椎圧迫骨折発生事例：居室生活者1名・ケアセンター利用者1名）事から、日々の生活の中に運動を取り入れているケアセンターの生活は、脊椎圧迫骨折等の予防にもなることが体験的に理解できた。

更にケアセンターでは、感染症予防シーズンのインフルエンザウイルスやノロウイルス等の感染症対策として、フロア内の加湿器設置に加え、個別（個室）にオゾン発生消臭装置をご用意いただき、感染症の予防に努めた。

#### 【フットケア実績（平成20年7月より毎月開催）】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年	25名	19名	20名	20名	17名	19名	23名	18名	15名	18名	12名	16名	222名
平成28年	21名	20名	25名	19名	21名	23名	23名	21名	17名	22名	17名	20名	249名
平成27年	18名	20名	23名	22名	27名	19名	23名	27名	15名	23名	19名	20名	256名

#### 【珈琲館実績（平成20年6月より毎月開催）】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年	22名	25名	25名	28名	23名	25名	25名	24名	31名	25名	21名	27名	301名
平成28年	24名	21名	25名	21名	24名	19名	24名	28名	15名	中止	28名	中止	229名
平成27年	24名	18名	16名	22名	22名	25名	23名	25名	25名	26名	24名	18名	268名

#### 【サロン遊々実績（平成24年7月より毎月開催）】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年	13名	7名	8名	11名	8名	9名	7名	4名	9名	8名	12名	12名	108名
平成28年	13名	8名	11名	8名	11名	11名	12名	7名	10名	11名	9名	13名	124名
平成27年	8名	12名	9名	9名	8名	11名	11名	17名	10名	14名	中止	10名	119名

### （3）安心・安全・プライバシー遵守

長期不在者や非定住者、自立者への介護情報サポートとして、「第8回介護サービス説明会」を開催した。テーマの「ラビドール御宿の介護サービスと福祉機器のご紹介」に沿って説明し、ラビドール御宿の生活の中で「体調不良になった場合」では治療に始まり、介護サービスを受けて自立復帰に至るまでの幅広い介護サービスを理解いただく機会となった。



また、介護サービス部内のカンファレンス・ミーティングでは、インシデント・アクシデント報告に基づく問題分析や、看取りの振り返り、身体拘束の廃止に向けた取り組みを確認し、より実践的な介護コンプライアンスの在り方を学習できた。

ケアセンターでは、利用者の高齢化により転倒の発生回数が増えているが、危険予知・予測の為、離床センサーやフットセンサーを活用し、入居者の行動を見守りながら転倒を防ぐ係わりを粘り強く継続している。このような身体拘束を行わないホームの意識が、入居者並びに家族の信頼を得る取り組みとして、これからも職員一体となって理想の介護施設に育てていきたいと考えている。

#### 【インシデント・アクシデント件数】

区分	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
インシデント	95件	86件	36件	30件
アクシデント	24件	19件	7件	8件
合計	119件	105件	43件	38件
(内転倒件数)	(82件)	(66件)	(30件)	(25件)

#### (4) 医療との連携強化

同財団診療所の連携・支援を受けながら、共同で15名の看取りに携わる事が出来た。入居者・家族の意見を頂戴し、一人ひとりの希望を汲み取りながら看取りを住み慣れたケアセンター或いは医療体制が整ったラビドール御宿隣接のラビドールクリニックで提供できた。この看取りについては、更なる職員の技術水準を高めるべく、目標を定めて技能向上に努めていきたいと考えている。

施設の「感染症予防」対策としては、感染の発生予防・拡大防止を組織的に取り組む体制をつくり、今年度も感染拡大防止に向け組織を機能させた。

今年度は入居者にB型インフルエンザの感染があったが、罹患者が自立者であった為、医師より自室での療養指示を受け、介護・看護職員のサポートで蔓延防止をする事ができた。

#### (5) 介護の人材育成

例年と同様に、社会福祉関連における国家資格取得サポートを実施した。

介護福祉士1名（前年度5名）が国家資格を取得した。

介護支援専門員1名の合格者を出すことができた。

認知症ケア専門士1名（認知症ケア学会認定）の合格者を出すことができた。

### Ⅲ 診療所運営事業：「財団附属診療所 ラビドールクリニック」

平成29年度も、地域医療への貢献と共に、「ラビドール御宿」への365日24時間の医療サポートを継続することが出来た。

地域医療においては、地元である御宿町（高齢化率約48%）で高齢者医療の最前線を担っている。また、前年度と同様に「御宿町教育支援委員会」「御宿町国民健康保険運営協議会」「夷隅郡市介護認定審査会」の委員を務めた。認知症サポート医の活動としては、「認知症サポート医講演会」（年1回）の講師を務め、2年目となる「御宿町認知症初期集中支援チーム」での活動も発展的に継続している。

「ラビドール御宿」へは、入居者の高齢化の進展による要介護者・要支援者の増加に対応して、「看取りケア」「認知症ケア」を充実させて来ている。看取りケアでは、最近3年間では亡くなられた方の約8割がラビドールでの看取りとなっている（今年度は15名）。「認知症ケア」の研修への参加も継続しており、認知症ケア専門士に看護師1名が合格し、資格保持者が3名となった。

今年度においても、財団附属診療所としてコンプライアンスを守り、良質な医療の提供に努め、地域住民並びにラビドール御宿入居者の健康サポートに貢献すべく努力した。

#### 1. 診療状況及び収支の改善

外来診療では常勤医2名体制が定着し、「患者数」及び「外来管理加算」「特定疾患療養管理料」の件数等で2年連続前年度より微増して来ている。

ケアセンターでの訪問診療の需要増（看取りケアの増加等）に伴い、在宅医療及び介護保険収入は増加している。特にケアセンターへの訪問診療回数は前年度比で36%増となっている。一方で、看護師のマンパワー不足もあり入院患者数は昨年度より減少している。

【診療所患者数等】

年度	外来			入院		
	延患者数	診療日数	一日平均	延患者数	診療日数	一日平均
平成29年度	8,883人	239日	37.17人	165人	365日	0.45人
平成28年度	8,855人	237日	37.36人	333人	365日	0.91人
平成27年度	8,795人	238日	36.95人	244人	366日	0.67人
平成26年度	8,904人	241日	36.95人	88人	365日	0.24人

- ・ケアセンターへの訪問診療（月平均）：72回（昨年度53回）
- ・入居者の看取りケア：9名対応（昨年度6名）
- ・インフルエンザワクチン予防接種：509名（昨年度510名）
- ・肺炎球菌ワクチン予防接種：70名（昨年度64名）
- ・介護保険主治医意見書：73通（昨年度76通）
- ・介護保険居宅療養管理指導（月平均）：28名（昨年度27名）

#### 2. 地域での活動

- (1) 所長が1月に御宿町「認知症サポート医講演会」にて講演活動を行った（千葉県認知症地域医療支援事業）。82名（御宿町民57名、医療福祉関係者25名）の参加者があった。
- (2) 看護師1名が夷隅郡市「介護認定審査会」の委員として通年で活動した。
- (3) 医師1名が「御宿町教育支援委員会」の委員として活動した（7年目）。
- (4) 所長が「御宿町国民健康保険運営協議会」の委員として活動した（3年目）。

- (5) 所長が認知症サポート医として「御宿町認知症初期集中支援チーム」の委員として活動した(2年目)。
- (6) 「御宿町特定健康診査・高齢者健診」に健診医として5回協力した(25年目)。
- (7) 所長が「ラビドール御宿」の産業医として、毎月の「安全衛生委員会」に参加し、職場巡視、ストレスチェック、健康診断の所見作成等を実施した(2年目)。  
また、医師会からの要請により御宿町内の「千葉県水産情報通信センター」の嘱託産業医となり、職場巡視等を実施している(2年目)。

### 3. 「ラビドール御宿」との、医療と介護のチームケア能力の向上

- (1) ケアセンターへの医療サポートを実施した。
  - ・ケアセンター看護業務に対してホーム看護チームに協力して対応した。
  - ・胃瘻栄養、経鼻胃管栄養、膀胱留置カテーテル等に協力を行った。
  - ・褥瘡予防ではハイリスク者に個別対応(体圧測定、適切な除圧器具の選択など)を行い、治療も共同で実施した。
  - ・ホームとの「感染対策共同委員会」を年2回実施し、インフルエンザウイルス・ノロウイルス等につき医療的見地に立った施設内感染防止に努めた。
  - ・「看取りケア」に対して、ホームと連携して入居者の個別なニーズに対応し、15名をクリニックとホームにて看取らせていただいた。
- (2) 毎月1回のホームでのサービス担当者会議に医師・看護師が全回出席し、要介護・要支援認定者等に対するの共通認識の向上に努めた。
- (3) 前年度同様に多くの服薬自己管理困難者(要介護・要支援認定者等、月平均71名(昨年度71名))に対して、ホームと連携し薬剤師を中心にサポートを行った。

### 4. 職員の知識、技能のレベルアップ

- (1) 「認知症看護研修会」「認知症ケア研修会」「看護師リーダー研修会」「医療安全研修会」の、4回の研修会に4名の看護師が参加した。  
千葉県主催の「認知症サポート医フォローアップ研修会」、日本医師会主催の「地域包括診療かかりつけ医研修会」「死体検案研修会」に所長が参加した。
- (2) 「安全管理研修会」を年2回実施した。「インシデント・アクシデント報告」を分析し、対策を図った。  
(「インシデント・アクシデント報告」年間5件、重大な事故はゼロ。)
- (3) 「院内感染対策研修会」を年2回実施した。
- (4) 看護師1名が、認知症ケア専門士(日本認知症ケア学会)に合格し、資格保持者が3名となった。

### 5. 「ラビドール御宿」入居者検診実施状況

入居者に対する検診を次の通り行った。

(1) 腹部超音波検診	5月～ 6月	99名受診(昨年度102名受診)
(2) 総合健診	9月～12月	127名受診(昨年度133名受診) 要介護者等に、介護サポート付き健診を実施した。
(3) 胃X線検診	3月～ 5月	昨年度同様に今年度も寒冷期を避けて実施中 (昨年度18名受診)

※検診でのインシデント・アクシデントの予防に努め、事故ゼロを達成してきている。

## IV 理事会、評議員会に関する事項

### 平成29年度第1回理事会

- (1) 日時：平成29年5月10日（水）16時～17時30分
- (2) 場所：KKRホテル東京
- (3) 議題：第1号議案 平成28年度事業報告及び決算の承認に関する件  
第2号議案 平成29年度定時評議員会の開催に関する件

### 平成29年度定時評議員会

- (1) 日時：平成29年5月30日（火）10時～11時10分
- (2) 場所：お茶の水ホテルジュラク
- (3) 議題：第1号議案 平成28年度事業報告に関する件  
第2号議案 平成28年度決算報告の承認に関する件  
第3号議案 評議員5名の選任に関する件  
第4号議案 理事4名の選任に関する件  
第5号議案 監事1名の選任に関する件

### 平成29年度第2回理事会

- (1) 日時：平成29年5月30日（火）11時10分～11時20分
- (2) 場所：お茶の水ホテルジュラク
- (3) 議題：第1号議案 代表理事、専務理事及び業務執行理事2名の選任に関する件

### 平成29年度第3回理事会

- (1) 日時：平成29年10月11日（水）16時～17時30分
- (2) 場所：KKRホテル東京
- (3) 議題：第1号議案 平成29年度（第21回）「チヨダ地域保健推進賞」選考に関する件

### 平成29年度第4回理事会

- (1) 日時：平成30年3月22日（木）16時～17時50分
- (2) 場所：KKRホテル東京
- (3) 議題：第1号議案 平成30年度事業計画及び収支予算に関する件

平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成30年5月  
一般財団法人 千代田健康開発事業団

## 平成29年度 財務諸表

平成29年4月 1日から  
平成30年3月31日まで

*貸借対照表	… 21
*正味財産増減計算書	… 22
*財務諸表に対する注記	… 26
*附属明細書	… 30



**貸借対照表**  
平成30年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	272,603,731	368,093,574	△ 95,489,843
未収入金	69,426,187	61,728,331	7,697,856
未収消費税	5,882,400	0	5,882,400
棚卸資産	4,279,361	4,265,508	13,853
前払費用	3,491,874	6,480,254	△ 2,988,380
繰延税金資産	7,331,500	7,551,200	△ 219,700
その他	416,454	588,650	△ 172,196
流動資産 合計	363,431,507	448,707,517	△ 85,276,010
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産運用積立金	0	0	0
基本財産投資有価証券	0	0	0
基本財産 合計	0	0	0
(2) 特定資産			
特定資産有価証券	1,000,000,000	1,000,000,000	0
建物	16,749,864	17,616,456	△ 866,592
建物付属設備	2,188,689	4,390,560	△ 2,201,871
構築物	17,058,163	17,768,919	△ 710,756
車両運搬具	1,275,307	2,903,070	△ 1,627,763
什器備品	6,255,941	9,349,613	△ 3,093,672
土地	15,400,000	15,400,000	0
役員退職慰労引当資産	500,000	500,000	0
固定資産購入積立資産	318,390,477	305,674,901	12,715,576
霊園購入積立資産	63,693,455	62,143,248	1,550,207
特定資産 合計	1,441,511,896	1,435,746,767	5,765,129
(3) その他固定資産			
建物	1,076,012,134	946,664,443	129,347,691
建物付属設備	111,213,352	110,938,896	274,456
構築物	40,015,070	42,695,141	△ 2,680,071
車両運搬具	2	739,702	△ 739,700
什器備品	109,489,704	94,120,995	15,368,709
リース資産	13,213,998	23,279,831	△ 10,065,833
土地	822,037,210	822,037,210	0
電話加入権	2,996,308	2,996,308	0
ソフトウェア	9,632,592	17,926,452	△ 8,293,860
敷金	3,504,950	3,504,950	0
預託金	0	0	0
投資有価証券	917,546,500	927,379,000	△ 9,832,500
電気通信施設利用権	498,255	535,162	△ 36,907
その他固定資産合計	3,106,160,075	2,992,818,090	113,341,985
固定資産 合計	4,547,671,971	4,428,564,857	119,107,114
資産 合計	4,911,103,478	4,877,272,374	33,831,104
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	0	0	0
未払費用	52,174,506	34,179,889	17,994,617
未払法人税等	140,000	140,000	0
未払消費税	0	4,492,800	△ 4,492,800
賞与引当金	34,466,950	36,195,600	△ 1,728,650
前受金	16,629,160	17,138,240	△ 509,080
預り金	1,922,822	5,813,869	△ 3,891,047
仮受金	0	1,079	△ 1,079
流動負債 合計	105,333,438	97,961,477	7,371,961
2. 固定負債			
入居預り金	1,587,246,750	1,477,629,750	109,617,000
介護費預り金	260,729,635	244,005,433	16,724,202
入居者長期未払金	72,847,105	86,940,242	△ 14,093,137
入居者長期預り金	917,356,701	950,722,365	△ 33,365,664
介護費長期預り金	105,539,033	107,733,672	△ 2,194,639
リース債務	13,213,998	23,279,831	△ 10,065,833
役員退職慰労引当金	500,000	500,000	0
固定負債 合計	2,957,433,222	2,890,811,293	66,621,929
負債 合計	3,062,766,660	2,988,772,770	73,993,890
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
(うち基本財産への充当額)	1,494,431,133	1,474,817,825	19,613,308
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	(1,344,842,529)	(1,339,894,197)	(4,948,332)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	353,905,685	413,681,779	△ 59,776,094
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	(96,169,367)	(95,352,570)	(816,797)
正味財産合計	1,848,336,818	1,888,499,604	△ 40,162,786
負債及び正味財産合計	4,911,103,478	4,877,272,374	33,831,104



**正味財産増減計算書**  
平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益			
特定資産受取利息	21,102,394	23,541,878	△ 2,439,484
特定資産売却益	0	26,176,800	△ 26,176,800
特定資産運用益計	21,102,394	49,718,678	△ 28,616,284
② 事業収益			
地域住民健診収益	0	0	0
老人ホーム事業収益			
入居預り金償却益	355,425,090	393,692,697	△ 38,267,607
管理費収益	197,846,280	198,470,520	△ 624,240
食費収益	93,602,834	99,668,744	△ 6,065,910
料飲収益	12,692,822	9,802,553	2,890,269
売店収益	15,071,545	14,844,827	226,718
施設負担金収益	15,028,799	16,173,203	△ 1,144,404
施設利用料収益	1,516,320	1,334,880	181,440
その他収入	0	0	0
老人ホーム事業収益計	691,183,690	733,987,424	△ 42,803,734
医療事業収益			
医療外来収益	82,669,128	77,795,093	4,874,035
医療入院収益	2,153,051	4,860,325	△ 2,707,274
医療室料収益	1,012,500	2,490,000	△ 1,477,500
介護保険収益	5,554,316	5,278,988	275,328
医療その他収益	1,017,440	920,738	96,702
医療事業収益計	92,406,435	91,345,144	1,061,291
介護事業収益			
介護費預り金償却益	54,676,813	62,338,690	△ 7,661,877
介護保険収益	133,205,874	130,099,133	3,106,741
介護事業収益計	187,882,687	192,437,823	△ 4,555,136
事業収益計	971,472,812	1,017,770,391	△ 46,297,579
③ 受取寄付金			
受取寄付金振替額	0	0	0
④ 雑収益			
受取利息	10,660,718	9,068,565	1,592,153
投資有価証券売却益	0	4,559,500	△ 4,559,500
投資有価証券償還益	2,844,000	3,500	2,840,500
投資有価証券評価益	615,500	0	615,500
永代使用料収益	1,549,680	17,753,600	△ 16,203,920
受取地代	93,548	1,200,000	△ 1,106,452
雑収益	6,847,575	10,100,603	△ 3,253,028
雑収益計	22,611,021	42,685,768	△ 20,074,747
経常収益計	1,015,186,227	1,110,174,837	△ 94,988,610
(2) 経常費用			
① 事業費			
役員報酬	3,200,000	3,634,000	△ 434,000
給料手当	282,883,489	281,139,265	1,744,224
賞与引当金繰入	32,793,750	34,524,600	△ 1,730,850
法定福利費	53,145,576	47,949,118	5,196,458
退職年金保険料	6,937,240	6,574,280	362,960
通勤費	5,867,710	5,810,145	57,565
福利厚生費	1,818,734	1,617,510	201,224
被服費	663,434	542,303	121,131
研修費	293,066	708,212	△ 415,146
会議費	382,999	408,891	△ 25,892
旅費交通費	177,047	208,496	△ 31,449
通信運搬費	3,096,702	2,903,456	193,246
什器備品費	1,927,923	2,749,218	△ 821,295
消耗品費	6,193,008	7,763,162	△ 1,570,154
修繕費	95,973,959	89,745,650	6,228,309
印刷費	3,542,881	3,415,739	127,142
図書費	278,695	255,834	22,861
燃料費	12,796,425	11,139,740	1,656,685
電気料	22,696,497	20,458,927	2,237,570
水道料	7,970,558	7,695,049	275,509
保守費	4,763,664	4,173,660	590,004
賃借料	8,087,131	38,574,545	△ 30,487,414
リース料	1,247,362	1,255,374	△ 8,012
業務委託費	188,269,160	193,088,189	△ 4,819,029
清掃費	1,840,849	1,907,520	△ 66,671
保険料	2,416,517	2,154,705	261,812
交際費	323,480	374,618	△ 51,138
諸会費	3,975,800	3,465,800	510,000
租税公課	39,545,285	36,822,050	2,723,235
自動車費	2,644,014	2,335,473	308,541
施設負担金	3,920,508	3,920,508	0
販売費	15,204,294	14,411,083	793,211
広告宣伝費	9,429,275	13,159,503	△ 3,730,228
教養娯楽費	3,119,317	2,853,867	265,450
支払手数料	3,438,304	3,936,910	△ 498,606
売店仕入費	13,106,678	12,827,344	279,334
医薬品仕入費	33,791,669	33,494,757	296,912

正味財産増減計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
介護負担金	6,686,893	3,531,230	3,155,663
研究助成費	5,800,000	2,800,000	3,000,000
応募関係費	0	0	0
選考関係費	0	0	0
贈呈式関係費	0	0	0
成果報告関係費	0	0	0
現地開催費	0	0	0
出張関係費	0	0	0
委託手数料	0	0	0
建物減価償却費	66,999,591	60,633,183	6,366,408
リース資産減価償却費	10,065,833	11,099,460	△ 1,033,627
建物付属設減価償却費	20,886,785	19,926,997	959,788
構築物減価償却費	5,132,651	5,195,853	△ 63,202
車両運搬具減価償却費	2,367,463	2,959,381	△ 591,918
什器備品減価償却費	31,758,758	20,520,028	11,238,730
電気通信施設減価償却費	36,907	36,907	0
ソフトウェア減価償却費	8,293,860	8,435,213	△ 141,353
雑費	700,717	839,548	△ 138,831
事業費計	1,036,492,458	1,033,977,301	2,515,157
②管理費			
役員報酬	6,400,000	7,268,000	△ 868,000
給料手当	9,720,716	9,729,017	△ 8,301
賞与引当金繰入	1,673,200	1,671,000	2,200
退職金	0	0	0
法定福利費	2,788,733	2,762,790	25,943
退職年金保険料	108,000	108,000	0
通勤費	900,540	779,120	121,420
福利厚生費	47,750	39,971	7,779
研修費	0	0	0
会議費	532,458	528,143	4,315
旅費交通費	449,906	484,879	△ 34,973
通信運搬費	924,271	941,401	△ 17,130
什器備品費	67,809	0	67,809
消耗品費	79,253	69,883	9,370
修繕費	0	64,081	△ 64,081
印刷費	272,926	236,815	36,111
図書費	63,634	57,045	6,589
電気料	396,974	384,544	12,430
水道料	23,281	28,488	△ 5,207
賃借料	4,509,987	4,509,987	0
リース料	181,440	181,440	0
業務委託費	4,123,964	3,844,660	279,304
清掃費	174,960	174,960	0
交際費	158,042	187,264	△ 29,222
保険料	6,680	6,680	0
諸会費	301,880	151,880	150,000
租税公課	3,664,498	3,547,478	117,020
支払手数料	23,190	27,402	△ 4,212
特定資産償還差損	0	0	0
特定資産売却損	0	0	0
雑費	35,208	642,594	△ 607,386
管理費計	37,629,300	38,427,522	△ 798,222
経常費用計	1,074,121,758	1,072,404,823	1,716,935
当期経常増減額	△ 58,935,531	37,770,014	△ 96,705,545
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
什器備品除却損	15,863	33,066	△ 17,203
電話加入権除却損	0	0	0
投資有価証券評価損	365,000	25,835,100	△ 25,470,100
投資有価証券償還損	100,000	152,750	△ 52,750
経常外費用計	480,863	26,020,916	△ 25,540,053
当期経常外増減額	△ 480,863	△ 26,020,916	25,540,053
他会計振替額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 59,416,394	11,749,098	△ 71,165,492
法人税、住民税及び事業税	140,000	140,000	0
法人税等調整額	219,700	46,100	173,600
当期一般正味財産増減額	△ 59,776,094	11,562,998	△ 71,339,092
一般正味財産期首残高	413,681,779	402,118,781	11,562,998
一般正味財産期末残高	353,905,685	413,681,779	△ 59,776,094
II 指定正味財産増減の部			
①特定資産運用損益			
特定資産投資有価証券評価損益	7,173,000	△ 48,081,000	55,254,000
②受取寄附金			
受取寄附金	12,440,308	180,118,365	△ 167,678,057
③一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	19,613,308	132,037,365	△ 112,424,057
指定正味財産期首残高	1,474,817,825	1,342,780,460	132,037,365
指定正味財産期末残高	1,494,431,133	1,474,817,825	19,613,308
III 正味財産期末残高	1,848,336,818	1,888,499,604	△ 40,162,786

**正味財産増減計算書内訳表**  
平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位:円)

科目	実施事業等会計			ホーム会計	法人会計	合計
	社会厚生会計	診療所会計	小計			
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
① 特定資産運用益						
特定資産受取利息	0	0	0	0	21,102,394	21,102,394
特定資産売却益	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益計	0	0	0	0	21,102,394	21,102,394
② 事業収益						
地域住民健診収益	0	0	0	0	0	0
老人ホーム事業収益						
入居預り金償却益	0	0	0	355,425,090	0	355,425,090
管理費収益	0	0	0	197,846,280	0	197,846,280
食費収益	0	0	0	93,602,834	0	93,602,834
料飲収益	0	0	0	12,692,822	0	12,692,822
売店収益	0	0	0	15,071,545	0	15,071,545
施設負担金収益	0	0	0	15,028,799	0	15,028,799
施設利用料収益	0	0	0	1,516,320	0	1,516,320
その他収入	0	0	0	0	0	0
老人ホーム事業収益計	0	0	0	691,183,690	0	691,183,690
医療事業収益						
医療外来収益	0	82,669,128	82,669,128	0	0	82,669,128
医療入院収益	0	2,153,051	2,153,051	0	0	2,153,051
医療室料収益	0	1,012,500	1,012,500	0	0	1,012,500
介護保険収益	0	5,554,316	5,554,316	0	0	5,554,316
医療その他収益	0	1,017,440	1,017,440	0	0	1,017,440
医療事業収益計	0	92,406,435	92,406,435	0	0	92,406,435
介護事業収益						
介護費預り金償却益	0	0	0	54,676,813	0	54,676,813
介護保険収益	0	0	0	133,205,874	0	133,205,874
介護事業収益計	0	0	0	187,882,687	0	187,882,687
事業収益計	0	92,406,435	92,406,435	879,066,377	0	971,472,812
③ 受取寄付金						
受取寄付金振替額	0	0	0	0	0	0
④ 雑収益						
受取利息	0	103	103	7,906,826	2,753,789	10,660,718
投資有価証券売却益	0	0	0	0	0	0
投資有価証券償還益	0	0	0	2,844,000	0	2,844,000
投資有価証券評価益	0	0	0	615,500	0	615,500
永代使用料収益	0	0	0	1,549,680	0	1,549,680
受取地代	0	0	0	93,548	0	93,548
雑収益	0	275,952	275,952	6,571,623	0	6,847,575
雑収益計	0	276,055	276,055	19,581,177	2,753,789	22,611,021
経常収益計	0	92,682,490	92,682,490	898,647,554	23,856,183	1,015,186,227
(2) 経常費用						
① 事業費						
役員報酬	3,200,000	0	3,200,000	0	0	3,200,000
給料手当	1,242,484	51,341,662	52,584,146	230,299,343	0	282,883,489
賞与引当金繰入	213,900	4,368,411	4,582,311	28,211,439	0	32,793,750
法定福利費	687,521	8,540,639	9,228,160	43,917,416	0	53,145,576
退職年金保険料	0	1,276,776	1,276,776	5,660,464	0	6,937,240
通勤費	0	586,974	586,974	5,280,736	0	5,867,710
福利厚生費	0	251,980	251,980	1,566,754	0	1,818,734
被服費	0	70,513	70,513	592,921	0	663,434
研修費	0	44,565	44,565	248,501	0	293,066
会議費	0	14,906	14,906	368,093	0	382,999
旅費交通費	0	73,496	73,496	103,551	0	177,047
通信運搬費	425,867	143,831	569,698	2,527,004	0	3,096,702
什器備品費	0	197,545	197,545	1,730,378	0	1,927,923
消耗品費	0	1,825,100	1,825,100	4,367,908	0	6,193,008
修繕費	0	193,875	193,875	95,780,084	0	95,973,959
印刷費	354,024	223,769	577,793	2,965,088	0	3,542,881
図書費	0	109,722	109,722	168,973	0	278,695
燃料費	0	0	0	12,796,425	0	12,796,425
電気料	120,818	1,380,847	1,501,665	21,194,832	0	22,696,497
水道料	7,085	41,088	48,173	7,922,385	0	7,970,558
保守費	0	178,250	178,250	4,585,414	0	4,763,664
賃借料	1,372,605	0	1,372,605	6,714,526	0	8,087,131
リース料	0	624,622	624,622	622,740	0	1,247,362
業務委託費	914,200	8,925,028	9,839,228	178,429,932	0	188,269,160
清掃費	0	59,733	59,733	1,781,116	0	1,840,849
保険料	0	94,533	94,533	2,321,984	0	2,416,517
交際費	0	99,102	99,102	224,378	0	323,480
諸会費	0	300,587	300,587	3,675,213	0	3,975,800
租税公課	0	0	0	39,545,285	0	39,545,285
自動車費	0	823	823	2,643,191	0	2,644,014
施設負担金	0	485,689	485,689	3,434,819	0	3,920,508
販売費	0	0	0	15,204,294	0	15,204,294
広告宣伝費	0	0	0	9,429,275	0	9,429,275
教養娯楽費	0	0	0	3,119,317	0	3,119,317
支払手数料	12,420	42,679	55,099	3,383,205	0	3,438,304
売店仕入費	0	0	0	13,106,678	0	13,106,678
医薬品仕入費	0	20,771,665	20,771,665	13,020,004	0	33,791,669

**正味財産増減計算書内訳表**  
平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位:円)

科目	実施事業等会計			ホーム会計	法人会計	合計
	社会厚生会計	診療所会計	小計			
介護負担金	0	0	0	6,686,893	0	6,686,893
研究助成費	5,800,000	0	5,800,000	0	0	5,800,000
応募関係費	0	0	0	0	0	0
選考関係費	0	0	0	0	0	0
贈呈式関係費	0	0	0	0	0	0
成果報告関係費	0	0	0	0	0	0
現地開催費	0	0	0	0	0	0
出張関係費	0	0	0	0	0	0
委託手数料	0	0	0	0	0	0
建物減価償却費	0	1,816,853	1,816,853	65,182,738	0	66,999,591
リース資産減価償却費	0	272,959	272,959	9,792,874	0	10,065,833
建物付属設備減価償却費	0	566,394	566,394	20,320,391	0	20,886,785
構築物減価償却費	0	139,184	139,184	4,993,467	0	5,132,651
車両運搬具減価償却費	0	64,199	64,199	2,303,264	0	2,367,463
什器備品減価償却費	0	861,214	861,214	30,897,544	0	31,758,758
電気通信施設減価償却費	0	1,000	1,000	35,907	0	36,907
ソフトウェア減価償却費	0	224,908	224,908	8,068,952	0	8,293,860
雑費	0	196,353	196,353	504,364	0	700,717
事業費計	14,350,924	106,411,474	120,762,398	915,730,060	0	1,036,492,458
②管理費						
役員報酬	0	0	0	4,800,000	1,600,000	6,400,000
給料手当	0	0	0	5,481,600	4,239,116	9,720,716
賞与引当金繰入	0	0	0	943,500	729,700	1,673,200
退職金	0	0	0	0	0	0
法定福利費	0	0	0	1,738,128	1,050,605	2,788,733
退職年金保険料	0	0	0	0	108,000	108,000
通勤費	0	0	0	428,555	471,985	900,540
福利厚生費	0	0	0	3,500	44,250	47,750
研修費	0	0	0	0	0	0
会議費	0	0	0	169,918	362,540	532,458
旅費交通費	0	0	0	449,906	0	449,906
通信運搬費	0	0	0	722,094	202,177	924,271
什器備品費	0	0	0	0	67,809	67,809
消耗品費	0	0	0	198	79,055	79,253
修繕費	0	0	0	0	0	0
印刷費	0	0	0	64,152	208,774	272,926
図書費	0	0	0	7,571	56,063	63,634
電気料	0	0	0	258,896	138,078	396,974
水道料	0	0	0	15,183	8,098	23,281
賃借料	0	0	0	2,941,296	1,568,691	4,509,987
リース料	0	0	0	0	181,440	181,440
業務委託費	0	0	0	3,475,964	648,000	4,123,964
清掃費	0	0	0	174,960	0	174,960
交際費	0	0	0	118,082	39,960	158,042
保険料	0	0	0	0	6,680	6,680
諸会費	0	0	0	155,000	146,880	301,880
租税公課	0	0	0	0	3,664,498	3,664,498
支払手数料	0	0	0	18,978	4,212	23,190
特定資産償還差損	0	0	0	0	0	0
特定資産売却損	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	550	34,658	35,208
管理費計	0	0	0	21,968,031	15,661,269	37,629,300
経常費用計	14,350,924	106,411,474	120,762,398	937,698,091	15,661,269	1,074,121,758
当期経常増減額	△ 14,350,924	△ 13,728,984	△ 28,079,908	△ 39,050,537	8,194,914	△ 58,935,531
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
什器備品除却損	0	0	0	15,863	0	15,863
電話加入権除却損	0	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損	0	0	0	0	365,000	365,000
投資有価証券償還損	0	0	0	100,000	0	100,000
経常外費用計	0	0	0	115,863	365,000	480,863
当期経常外増減額	0	0	0	△ 115,863	△ 365,000	△ 480,863
他会計振替額	14,350,624	17,095,434	31,446,058	△ 27,247,110	△ 4,198,948	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 300	3,366,450	3,366,150	△ 66,413,510	3,630,966	△ 59,416,394
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	140,000	0	140,000
法人税等調整額	0	0	0	219,700	0	219,700
当期一般正味財産増減額	△ 300	3,366,450	3,366,150	△ 66,773,210	3,630,966	△ 59,776,094
一般正味財産期首残高	△ 213,600	116,837,413	116,623,813	39,898,087	257,159,879	413,681,779
一般正味財産期末残高	△ 213,900	120,203,863	119,989,963	△ 26,875,123	260,790,845	353,905,685
II 指定正味財産増減の部						
① 特定資産運用損益						
特定資産投資有価証券評価損益	0	0	0	0	7,173,000	7,173,000
② 受取寄附金						
受取寄附金	0	0	0	12,440,308	0	12,440,308
③ 一般正味財産への振替額						
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	12,440,308	7,173,000	19,613,308
指定正味財産期首残高	0	0	0	362,764,725	1,112,053,100	1,474,817,825
指定正味財産期末残高	0	0	0	375,205,033	1,119,226,100	1,494,431,133
III 正味財産期末残高	△ 213,900	120,203,863	119,989,963	348,329,910	1,380,016,945	1,848,336,818

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法に基づく原価法

#### (2) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(売却価額は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

##### ①有形固定資産

建物、平成28年4月1日以降に取得した建物付属設備及び構築物の減価償却は、法人税法に規定する法定耐用年数による定額法を採用している。

平成28年3月31日以前に取得した建物付属設備及び構築物、車両運搬具及び什器備品の減価償却は、法人税法に規定する法定耐用年数による定率法を採用している。

##### ②無形固定資産

ソフトウェアの減価償却は、定額法による方法を採用している。

##### ③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産について、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

#### (4) 引当金の計上基準

##### ①賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

##### ②退職給付引当金

職員の退職に備え、勤労者退職金共済機構の中小企業退職金共済制度を導入したため、退職給付引当金はない。

##### ③役員退職慰労引当金

役員(非常勤を含む)の退職慰労・功労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。

#### (5) 消費税等の会計処理

消費税等の経理処理は、税込方式によっている。

#### (6) 税効果会計の適用について

税引前の当期一般正味財産増減額と法人税等の金額を合理的に期間対応させ、より適切な当期正味財産増減額を計上することを目的として税効果会計を適用している。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	備考
特定資産					
投資有価証券	1,000,000,000			1,000,000,000	
役員退職慰労引当資産	500,000			500,000	
固定資産購入積立資産	305,674,901	12,715,792	216	318,390,477	
霊園購入積立資産	62,143,248	1,550,207		63,693,455	
建物	17,616,456		866,592	16,749,864	
建物付属設備	4,390,560		2,201,871	2,188,689	
車両運搬具	2,903,070		1,627,763	1,275,307	
什器備品	9,349,613		3,093,672	6,255,941	
構築物	17,768,919		710,756	17,058,163	
土地	15,400,000			15,400,000	
合計	1,435,746,767	14,265,999	8,500,870	1,441,511,896	

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)	備考
特定資産					
投資有価証券	1,000,000,000	(1,000,000,000)	(0)	(0)	
役員退職慰労引当資産	500,000	(0)	(0)	(500,000)	
固定資産購入積立資産	318,390,477	(318,390,477)	(0)	(0)	
霊園購入積立資産	63,693,455	(0)	(63,693,455)	(0)	
建物	16,749,864	(16,749,864)	0	(0)	
建物付属設備	2,188,689	(2,188,689)	(0)	(0)	
車両運搬具	1,275,307	(1,257,558)	(17,749)	(0)	
什器備品	6,255,941	(6,255,941)	(0)	(0)	
構築物	17,058,163	(0)	(17,058,163)	(0)	
土地	15,400,000	(0)	(15,400,000)	(0)	
合計	1,441,511,896	(1,344,842,529)	(96,169,367)	(500,000)	

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高	備考
特定資産				
建物	25,488,000	8,738,136	16,749,864	
建物付属設備	24,990,000	22,801,311	2,188,689	
構築物	20,920,691	3,862,528	17,058,163	
車両運搬具	30,186,632	28,911,325	1,275,307	
什器備品	15,977,942	9,722,001	6,255,941	
小計	117,563,265	74,035,301	43,527,964	
その他固定資産				
建物	2,238,601,756	1,162,589,622	1,076,012,134	
建物付属設備	614,647,232	503,433,880	111,213,352	
構築物	265,144,271	225,129,201	40,015,070	
車両運搬具	8,101,163	8,101,161	2	
什器備品	380,165,605	270,675,901	109,489,704	
リース資産	88,966,896	75,752,898	13,213,998	
ソフトウェア	48,392,751	38,760,159	9,632,592	
電気通信施設利用権	738,150	239,895	498,255	
小計	3,644,757,824	2,284,682,717	1,360,075,107	
合計	3,762,321,089	2,358,718,018	1,403,603,071	

5. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内容	金額
(老人ホーム事業会計)	
経常収益への振替額	
減価償却費計上による振替額	0
合計	0

## 6. 税効果会計関係

### (1) 繰延税金資産の主な原因別の内訳

(単位:円)

項目	金額	備考
賞与引当金繰入否認	7,331,500	
繰延税金資産(流動資産)	7,331,500	
投資有価証券評価益否認	△ 12,097,200	
繰越欠損金	55,339,100	
入居者長期預り金	223,707,200	
評価性引当額	△ 266,949,100	
繰延税金資産(固定資産)	0	
繰延税金資産合計	7,331,500	

### (2) 法人税法上の非収益事業と収益事業の区分

(単位:円)

項目	非収益事業	収益事業	合計	備考
税引前当期一般正味財産増減額(A)	3,630,666	△ 63,047,060	△ 59,416,394	
法人税、住民税及び事業税(B)	0	140,000	140,000	
過年度法人税等(C)	0	0	0	
法人税等調整額(D)	0	219,700	219,700	
当期一般正味財産増減額(A)-(B)-(C)-(D)	3,630,666	△ 63,406,760	△ 59,776,094	

### (3) 法人税法上の収益事業に係る法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

当事業年度は税引前当期一般正味財産増減額がマイナスのため記載を省略する。

## 7. リース取引関係

### (1) ファイナンス・リース取引

#### ① 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

その他固定資産

有料老人ホーム「ラビドール御宿」における、緊急コールシステム、構内電話交換機である。



## 附属明細書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表の注記に記載しているため、内容の記載を省略している。

### 2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	36,195,600	34,466,950	36,195,600	0	34,466,950
役員退職慰労引当金	500,000	0	0	0	500,000

一般財団法人  
千代田健開発事業団